

優秀賞

今日も、元気です

篠原 里菜 (会社員：福岡県)

急速な少子高齢化と核家族化により、高齢者の単独世帯が増加している。それに伴い、全国各地の自治体で広まりつつある黄色い旗運動。毎朝、起きたら家の軒先や玄関先のよく見える位置に黄色い旗を立てておき、夕方になるとししまうことで安否確認を行っている。近所の人々が旗を見て気がついて自宅まで様子を見に行く。黄色い旗をきっかけに、地域の中でお互いに意識し合い、コミュニケーションが生まれ、安心感や連帯感が生まれているようだ。

しかし、家が路地裏にあるため人目につかなかったり、地域によっては家同士が離れているなど、活用が難しい場合があるのではないか。そこで黄色い旗のように自治体で高齢者をみまもるようなゲームを提案する。ログインするとその情報が自治体に送られる。ログインが連続してされていない場合は、電話もしくは訪問して安否を確認する。また地域ごとでグループ化し、そのログイン情報をそのグループの人たちが共有できるようにする。家まで旗を見に行かなくても、ログイン情報で安否確認を行うことができる。

またゲーム内には認知症予防のゲームを設置する。認知症は自覚症状がないことが多いとされるので、定期的に認知症テストも実施し、成績が芳しくない場合はその情報も自治体に送る。その方が運転免許証を利用している場合は運転免許証認知機能検査を受けてもらうよう促す。登録を行うことで、家族にもログイン履歴や、認知症のテスト結果を送れるようにする。

遠くで暮らす家族や近所の人々が今日も元気にしているのか？ふと気になることはあっても、確認するという行動にうつすことはなかなかない。「今日も、元気です」が高齢者、その家族、自治体のみんなが安心して暮らせるきっかけになればいいと思う。